

撮影／冥賀明子



大刀剣市2024 開催の教訓と今後の展望

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



令和六年度の「大刀剣市」は、十一月二日（土）・三日（日、文化の日）、問題なく終えることができました。ご来場の皆さま、お出展の皆さまのおかげです。ありがとうございました。私自身、今年は出店を見合わせ、実行委員だけに専念してわかったことが多くありました。初日の開場時間の混乱は五年度のような長い行列に対し、美術倶楽部のらせん階段で対策を

れ、避けることができませんでした。それでも不満を口にされる来場者もいて、完璧というわけではありません。同じ来場者が三階の受付でも大声で不満を述べ、事務局やアルバイトの女性たちも苦労したようです。このエレベーター前の受付は、人間模様を映し出すスクリーンのように、品格を表現する俳優さんたちを見るかのようでした。

通過する度に半券を出すのは当然のごとく、多くの人はそうしてくれますが、「俺の顔を知らんのか」「俺は顔パスだ」というタイプも確実にいます。このエリアでもがれたチケットの数は直ちに数えられ、一年前との比較をしながらの作業なので、つい「顔パス」や「ナゾの臨時従業員」に釈然としない思いを持つのです。

毎年いらっしゃる来場者の中には見覚えのある方もいますが、確実に年齢を重ねていることがわかります。実はそれは、常に顔を見合わせている私たち

組合員も同じはずですが、三日間を二日間に変えたのは、この疲労対策の部分もあるのです。それに対し、女性や若い方が増えているにもかかわらず、来場者数は横ばいか、弱含みに転じています。愛好家の高齢化という現実を突きつけられ、今後この辺に大刀剣市の、また刀剣界の課題があると思われま

ともあれ、皆さん、二日間お疲れさまでした。最後に断言します。出店と実行委員と兼業で参加するより、実行委員長専業のほうがずっと疲れます。何せ、逃げ場所がありませんから。「大刀剣市」実行委員長 綱取謙一

前年度までの改善点などを、一つ一つ実行委員会で協議し、安全な会場と安心して商談できる設備を、実行委員会は心掛けています。至らぬ点はあるかと思いますが、関係者にとって共通の目標となっている無事故運営のため、今後もご協力をお願いいたします。

今回は、お客さまの入場口を従来の四階から三階へ変更しました。本来であれば、平等を原則とする組合ですので、階を分けての展示即売会ではなく、出店者の全てがワンフロアで営業できることが望ましいのですが、それも言いつけられませんでした。

大刀剣市開催のサポートをお願いしました理事の方々のおかげもあって、大きな混乱もなく、お客さまに入場いただきました。近年は刀剣ブームの余波か、大刀剣市への取材申し込みも徐々に増えてきました。今回はテレビ取材の申し込みもあり、終日、会場内を撮影していただきました。

メディアへの露出が増え、本事業は、刀剣社会に携わる方々の職業的地位の向上にも関わります。日本刀が社会にさらに受け入れられるためにも、出店者の皆さまの協力の下、統一感を持った会場設営が大事な要素となっています。会期を終え、皆さまのご意見を頂戴します。今年も共通して「商品の搬入日」に、店主以外の臨時の外国人店員が他店の陳列中の商品を見て回り、「商談」の声までかけるので、陳列の準備に支障が出ているという声がありました。この事案は、実行委員会より事前説明会においても注意喚起として、説明をしましたが、商品の搬入日には、自社ブースに商品陳列が終了しましたら、速やかに退館をお願いします。今後も実行委員会は、出店者の皆さまとともに、安全で安心してご来場いただける大刀剣市を目指してまいります。
(設営責任者 嶋田伸夫)

2025.1.15 No.71
発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
https://www.toukenkumiai.com/
第71号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 新堀 孝道 瀬下 明 土子 民夫
綱取 謙一 土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏 吉井 唯夫

会場設営から「大刀剣市」を省みる

「大刀剣市」は開催日の約一年半前より準備が進められています。

会場として定着している東京美術倶楽部の手配、各店舗の設営日と撤去日、会場設営会社の選定、選定後の開催計画の確認などが行われます。

会場内の各ブース配置は、来場者が一部に偏らず、会場全体を回遊するような動線を念頭にレイアウトされています。また地震・火災などの非常事態にも備え、消防法施行令を遵守して通路幅を取っていますが、さらなる安全を考慮して、今回から通路幅の狭い部分に面する出店者にご協力をいただき、十分な通路幅を持たせるため、出店ブースを移動してもらいました。

前年度までの改善点などを、一つ一つ実行委員会で協議し、安全な会場と安心して商談できる設備を、実行委員会は心掛けています。至らぬ点はあるかと思いますが、関係者にとって共通の目標となっている無事故運営のため、今後もご協力をお願いいたします。

刀買取委託 e-sword イソード
〒350-1115 埼玉県川越市野田町1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
刀通販サイト www.e-sword.jp
日本刀 イソード 検索
mail:info@e-sword.jp
イソード (株) e-sword 平子誠之

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
代表 (株) 城南堂古美術店
田中 勝憲
〒153-10051 東京都目黒区上目黒四-13-11
TEL 03-371-0167 FAX 03-371-0167
FAX 03-371-0167

日本刀の 名品・名刀を販売
店主 小暮 昇一
〒529-11315 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
TEL 0749-142173 FAX 090-3162176
http://www.goushuya-nihontou.com

アオバ企画(株) 高橋 一
〒130-0012 墨田区大平四-19-11
TEL 03-3621-1111 FAX 03-3621-1151
メール aobakk@pjs.so-net.ne.jp

刀剣・書画・骨董 和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510 FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

撮影／冥賀明子



「大刀剣市」36回の思い出

世界中の刀剣ファンに認知されるようになった「大刀剣市」ですが、三十年以上同じスタイルで開催しているように見えて、実は時の流れに対応して、いろいろ変化しています。

始まりは、産経新聞社の広い会議室のようなところ。「刀剣フェスティバル」という名称で、二二店舗でのスタートです。

入場無料で、デパ地下のようなのれん会方式。前方のガラスケースに背後にひな壇の展示スタイルは、当初から三十年変わっていません。

四回目からは、天井の高い開放感のあるサンケイホールでの開催です。当時は有名なホールでした

が、店舗ごとの間仕切りのため、それほど広くは感じられませんでした。

各職方に実演もしていただきました。同じフロアにレストランもありました。

たまたまサンケイホールが建て替えということになり、ホールでは二回開催しただけで、第六回は東京美術倶楽部へ。大手町から新橋へと大移動です。

名称も「刀剣フェスティバル」から「大刀剣市」に変わり、実行委員会もいろいろと趣向を凝らし、カタログの復活発行、大河ドラマに沿った刀の特別展示、刀匠らによる銘切り、居合・試斬の実演、災害義援金募集のチャリ

ティー・オークションなど実施してきましたが、とりわけ現代刀・新作刀の販売コーナーには力を入れました。

初期の頃から行われていた「出店業者間相互取引」という制度は、交換会のように組合が立替払いをするシステムです。かなりの取引があったようですが、多忙な最終日に事務局が小切手発行の煩雑さに追われるため、しばらくして取り止めになりました。

第十回の開催頃から、当時のテレビの人気番組にあやかっ「我が家のお宝鑑定会」と称し、現在の休憩コーナーの広さほどの会場で、大勢のお客さまを前に鑑定評価を大々的に行っていました。しかし、いろいろな不都合なこともあって、次第に規模を縮小し、数年前から休止中です。

特に記憶に残っているのは三回目の産経新聞社での開催です。この時だけは、会場設営が全く違いました。

現在のようないくつかのパーティションで仕切らず、広い会議室の真ん中を低いガラスケースで囲い、デパートの宝石セールのように店舗を配置して、壁側の店舗と向かい合わせます。入場したお客さまは、ぱっと全体が見渡せました。

視界をさえぎるものがないので、お客さんで賑わっている店椅子に座って所在ない感じの店主、出店業者間相互取引をまさに実行している様子などを、自分の店が暇な時に遠くから眺めていました。

なぜこの時だけ、このような会場設営になったかを、当時の実行委員会に聞いてみたいですね。

初回より三十六周年を経て激変したことを挙げるとうつ、私見ですが、出店業者の激増という肥大化、来場者のうちの外国人・女性愛好家の比率が急激に高まったこと、それと一つ、初日のオープン前のセレモニーが簡素化してきたことです。呼び方も「朝礼」になりました。

初期の頃は、開会の辞、来賓の挨拶、表彰式、テープカットなど、開店準備に慌ただしい中でも三十分かけて行っていたようです。

近年から出店された組合員の方にとっては、この大刀剣市というビッグイベントが、産経新聞社の会議室からのスタートと聞くと、きっと驚かれることでしょう。

(服部暁治)

学び多かった初出店

川口 博(常陸美術)



茨城県で刀剣・甲冑を中心とした古美術店を営んでおります、常陸美術の川口と申します。

この度「大刀剣市」に初出店させていただきました。賑わい、熱気に包まれる会場の雰囲気、圧倒され、まじついていくうちに二日間が終了いたしました。

何分、組合に入りましてからの経験も浅く、先輩方のお力を借りつつ見よう見まねでの陳列、接客であったという間の二日間でした。

一日目はあいにくの雨にもかかわらず、全国各地から多くのお客さま、海外からもたくさんの方にご来場いただき、お客さまをお待たせすることもありましたので、反省し改善していかなければならないと思っております。

二日目は少し落ち着き、たくさんの方と交流させていただきました。

お客さまより教えていただくことも多々あり、ありがたい経験をさせていただきました。

お客さまが私の仕入れた商品を選び、購入していただき、喜んで帰られる姿を見て、今後商品選びに自信を持っていきたいと思えました。

仕入れ、ディスプレイ、接客と大変な部分もありましたが、とても良い体験ができたと感じております。

至らぬことも多かったと思いますが、初出店を心配して何度も当店のブースに来てくださった常務理事、開場前に励ましに来てくださった深海理事長に心から感謝いたします。

大刀剣市の関係者さま、関わってくださった全ての方々に厚く御礼申し上げます。

大刀剣市を終えて

モリーナ令(ギャラリー陽々)



この度は念願の「大刀剣市」に出店させていただきました、ありがとうございました。

当ギャラリーは、ハケ岳南麓で、日本・中国・韓国の古美術を扱って、特に刀装具や武器、その中でも肥後金工の作品に力を入れています。普段はオンラインや来店予約制で、お客さまに対応しています。

名店揃いの大刀剣市で、しかも広いスペースを頂きましたので、まずは当店を知っていただけるように、肥後鐘をあらわしたのれんなどを作り、店頭のデザインに力を入れました。

初出店ですので、ご来場くださった方々に新鮮な驚きを持っていただけることをテーマに、刀装具は各時代と流派に分けてなるべく多くを展示しました。

菅野大行先生の「透鑢」は私のバイブルで、尾張鑢を初めて商ったことがきっかけで、今があり、素敵なご縁もいただきました。透鑢は「武士道の美学」の象徴です。透鑢は全種類、古美術、古金工、信家や肥後金工などの作品を約二〇点、後藤家と町彫金工の作品を約四〇点、その他刀剣、拵、刀掛けや甲冑も展示しました。

平田・志水・西垣・林・神吉各代の作品の魅力が伝われば良いと思います、特に肥後金工の作品を選んで冊子にし、お客さまにお配りしました。

欧米の愛好家の友人から、「身長の高い自分たちは、しゃがむことが困難で、ガラスケースに展示されている刀装具は天面しか見ることができない」という話を参考に、ガラスケースを利用して、そ

の上に設置できるような、傾斜を付けた展示ケースを特別にデザインしました。

重量についても、ガラスケースのメーカーに取材をして強度的にも許される範囲のものを設計しました。また、盗難防止対策として、強度のあるアクリル板も取り付けました。

「すごいね！ 見やすい！」と好評で、安心しました。

海外からのお客さまも、この盛大な二日間を一年前から心待ちにされていまして、会期後も「来年も行きたい」といった連絡も頂きました。

実行委員の皆さまにおかれましては、ご多忙の中、素晴らしい大刀剣市の準備をしてくださり、本当にありがとうございました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

刀剣・刀装具界のさらなる発展に少しでも貢献できるような、精進してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日本刀・刀装具 販売・買取

創業 38年

株式会社 美術刀剣 松本

代表取締役 松本義行

Tel.03-6456-0889

東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル3F

刀剣松本 謹啓

銀座日本刀ミュージアム

泰文堂

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-7-16 岩月ビル2階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367

http://www.taibundo.com

美術日本刀・鑢・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD.

(株)日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1

TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二丁目一

TEL 〇六-六六三二-二二一〇

FAX 〇六-六六四四-五四六四

美術刀剣、小道具、武器類の 売買、加工及び御相談承ります

刀剣・小道具・甲冑武器

目白 飯田高遠堂

代表取締役 飯田慶雄

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33

TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615

http://www.iidakoendo.com

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



重要美術品(長野県宝) 刀 銘 為窪田清音君 山浦環源清磨製 弘化丙午年八月日

<https://www.touken.or.jp/museum/>

〒130-0015 墨田区横網一-二-一九 ☎03-6284-1000

水心子正秀没後二〇〇年記念
江戸三作(正秀・直胤・清磨)展

日本刀の歴史において、江戸時代中期頃は泰平の世が続いたために武器としての需要が減り、日本刀制作の衰退期に入ります。この時代は他の時代に比べ現存する作品が少なく、名だたる刀工も少数にとどまっています。そのような衰勢の時期を経て安永年代(一七七二〜八一)以降、外庄の影響などもあって再び作刀の活況を呈する時代を迎え、おびただしい数の日本刀が制作されました。この安永期から幕末まで作られたものを「新々刀」と呼びならわし、その新々刀の祖と位置づけられているのが水心子正秀です。正秀は、いわゆる「復古刀」論を提唱したことにより日本各地から一〇〇名にものぼる門弟が集まり、指導書である『劔工秘伝志』や『劔実用論』などを著して刀工達に大きな影響を与えました。

本年は水心子正秀が歿してから二〇〇年の節目となります。正秀によって衰退期から脱した鍛刀界は、風雲急を告げる幕末の状況も相まって急激に需要が高まり、優れた多くの刀匠が輩出されました。中でも江戸はその中心地で、筆頭に挙げられるのが正秀と大慶直胤、そして源清磨の三名工です。彼らは江戸に在住したことから「江戸三作」と総称され、その作品は現在美術品として高く評価されています。この度の展覧会では正秀没後二〇〇年を記念して、これら三作の作品を取り集めました。幕末の名刀匠達による会心の作品を通じて、時代背景や単なる武器ではないその高い美術性に触れていただく機会となれば幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり多大なるご協力を賜りました関係各位に、心より感謝申し上げます。

会期…三月八日(土)〜五月十一日(日)
会場…刀剣博物館

出品目録

前期：～4月13日、後期：15日～

No.	期	指定	種別	銘	長さ
1	通	重刀	刀	於武州出羽住人五郎正秀 安永六年八月日	69.8
2	通		脇指	水心子正秀 天明六年八月日	51.8
3	通		刀	水心子正秀 出剛閃々光芒如花 二腰両腕一割若瓜	69.4
4	通		脇指	水心子正秀(花押) 寛政九年八月日	44.4
5	通		脇指	川部儀八郎藤原正秀(刻印) 寛政十一年八月日 正宗作大進房 彫圖	56.4
6	通	重刀	脇指	於東大城之下 水心子正日出造之 享和二年二月日	57.1
7	通		脇指	水心子正日出(花押)(刻印) 文化六年八月吉日 応瀧澤儀兵衛好以富士山之水淬刃	51.4
8	通		脇指	正秀(花押)(刻印) 文化八年二月日	38.9
9	通		刀	川部儀八郎藤原正秀(花押)(刻印) 文化九年八月日 応中村元忠需作	70
10	通		刀	水心子正秀(花押)(刻印) 文化十一年二月日	71
11	通	重刀	刀	水心子正秀(花押) 文化十二年癸在乙亥二月吉日造 百鍊精剛淨掃妖氛(刻印)	71.1
12	通		刀	川部儀八郎藤原正秀(花押)(刻印) 文化十二乙亥二月吉日 余之於石井氏交情日旧而石井氏之 於刀劍嗜好誠厚矣於是乎鍛以贈之	69.7
13	通		刀	水心子正秀(花押)(刻印) 文化十二年八月日	69.7
14	通	重刀	大小 脇指	刀 六十八翁水心子正秀淬刃 (刻印) 文化十四年八月日 水寒子貞秀鍛之 六十八翁正秀渡焼刃(刻印) 文化十四年八月日 水寒子貞秀鍛之	大 70.9 小 45.2
15	通		大小 脇指	刀 水心子正秀(花押)(刻印) 文政元年八月日 脇指 水心子正秀(刻印) 文化十五年二月日	大 68.5 小 43.6
16	通		刀	七十二翁 天秀(刻印) 文政三年八月日	69.8
17	通		小刀	(刀身銘) 文化六年八月日 水神土正日天作	
			小刀	(刀身銘) 寿 文政五七十三翁 天秀	
			小刀	(刀身銘) 壽 七十三翁 天秀	
			小刀	(刀身銘) 壽 七十三翁 天秀	
			小刀	(刀身銘) 水心子正秀	
			小刀	(刀身銘) 水心子正秀	
			小刀	(刀身銘) 水心子正秀	

No.	期	指定	種別	銘	長さ
18	前		脇指	大慶直胤 於東都神田作之	46
19	前		刀	(三日月文) 大慶莊司直胤(花押) 文化八年仲秋	67
20	後		大小	大慶庄司直胤(花押) 文化十年仲春 応堀口光重需作之	大 69.1 小 46.1
21	後	重刀	刀	出羽国大慶庄司直胤(花押) 文化十一年仲春 腰車土壇弘 太田良蔵試之	70.7
22	前	重美	刀	出羽国大慶庄司直胤(花押) 文化十二乙亥年仲秋 応 杉原軍記正包望造之	69.4
23	後	特重	刀	出羽国住人大慶庄司直胤(花押) 彫よしたね 野も山も照さぬ月はなけれども 海にやふかく陰やどるらん	72.7
24	前		刀	莊司筑前大掾大慶直胤(花押) 文政四年五月日	70.8
25	前		脇指	莊司筑前大掾大慶直胤(花押) 文政十三年仲秋	53.9
26	後	重刀	脇指	莊司筑前大掾大慶直胤(花押) 文政十三年仲秋 彫よした祢	47.6
27	後	重刀	刀	莊司筑前大掾大慶直胤(花押) 天保二年仲春	69.7
28	前	重刀	刀	造大慶直胤(花押) 於久居 天保三壬辰年五月日	71.4
29	後	重刀	刀	造大慶直胤(花押) 天保四年仲春	71
30	後	重美	刀	造大慶直胤(花押) 天保五年仲春	71.2
31	前		薙刀	五拾本内大慶直胤(花押) 天保五年仲春 一	70.3
32	通		短刀	藤直胤(花押) 天保五年春二月日 彫よした祢	24.1
33	前	重刀	大小	造大慶直胤(花押) 天保七年仲春	大 72.2 小 51.2
34	後		脇指	造大慶直胤(花押) 天保七年仲春	51.1
35	前	重刀	刀	造大慶直胤(花押) 天保七年十一月吉日(刻印・シナノ)	71.8
36	後		刀	六十五翁 莊司筑前大掾藤直胤 (花押) 天保十四年二月日	80.9
37	前	重美	刀	七十翁 藤直胤(花押) 弘化五申ノ二月日依 太政殿下台 命所造之御太刀副作也(刻印・都)	71.2
38	通		脇指	(刀身銘) 安政三年二月日 大慶作	34.2
39	後		刀	安政二年正月吉日 水心子正次 (花押) 八十一翁 美濃介直胤(花押)	70.2
40	通		小刀	(刀身銘) 文化七年十二月三日 筑州土正満依来好望 大慶直胤作	

No.	期	指定	種別	銘	長さ
40	通		小刀	(刀身銘) 天保六乙未年二月 直胤	
			小刀	(刀身銘) 七十九翁 美濃介直胤	
			小刀	(刀身銘) 八十翁 美濃介直胤	
			小刀	(刀身銘) 八十翁 義胤	
			小刀	(刀身銘) 造大慶直胤	
			小刀	(刀身銘) 莊司筑前大掾直胤作	
			小刀	(刀身銘) 莊司筑前大掾大慶直胤	
			小刀	(刀身銘) 莊司筑前大掾大慶直胤作	
41	通		鑿	(刀身銘) 直胤作 天保丙申	
42	前		脇指	天然子完利 二十七歳造之 一貫齋正行 十八歳造之 文政十三年四月日	42.3
43	後		短刀	山浦内蔵助源秀寿 天保五年仲冬 為保土龍氏作之	29.8
44	前	重刀	短刀	源秀寿 天保五年仲冬 為齋齋主人作之	22.9
45	後		大小 脇指	刀 山浦環正行造之 為張助太郎至治 天保十二年八月吉日 脇指 山浦環正行造之 為張助太郎至治 天保十二年八月日	大 81.8 小 50
46	前	重刀	刀	源正行 天保十五年八月日	84.5
47	後	重刀	刀	源正行 天保十五年八月日	81.3
48	前	重美 (長野県宝)	刀	為窪田清音君 山浦環源清磨製 弘化丙午年八月日	80
49	後	重刀 (長野県宝)	短刀	源清磨 弘化丁未年二月日 依鳥居正意好造之	28
50	前		短刀	清磨 弘化丁未年八月日	28.8
51	後	重刀	脇指	清磨 弘化五年二月日	46.2
52	前	特重	大小	源清磨 嘉永元年八月日	大 68.4 小 48.2
53	後	重刀 (長野県宝)	刀	源清磨 嘉永二年八月日	71
54	前	重刀	刀	源清磨 嘉永三年二月日	76.4
55	後		脇指	源清磨 嘉永三年二月日	51.2
56	後	重刀	刀	源清磨 嘉永三年八月日 為山本重厚	85.2
57	前	重刀	薙刀	源清磨 嘉永三年八月日 為岡田善伯君造之	49.1
58	前	重刀	刀	源清磨 中嶋兼足佩刀	77.3
59	前	重刀	脇指	源清磨 嘉永五年二月日	31.3
60	後	重刀	短刀	清磨	29.4
61	通		小刀	(刀身銘) 山浦正行製	12



刀を鑑賞される鈴木議員

鈴木俊一衆院議員が来館

去る一月十五日、ご公務で大変お忙しい中、自由民主党総務会長

で、「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」代表の鈴木俊一衆院議員が刀剣博物館にご来館されました。最初に、展示室にて日本美術刀剣保存協会学芸部長の案内で、展示の刀剣類を一点一点つぶさにご覧になられ、数々の名品をご堪能いただきました。その後、刀剣博物館所蔵の名刀を手にとって、地鉄や刃文の様子などを熱心に鑑賞されました。また、協会役員とのご歓談の席にも臨まれ、一時間ほど滞在されました。

刀剣博物館は、令和六年十二月二十五日付で文化庁長官から文化財保護法第五十三条の規定に基づく「公開承認施設」に承認されました。公開承認施設とは、国宝・重要文化財等の公開が文化財の保存上適切な施設で促進されることを目的に、公開にふさわしい施設として文化庁長官が承認する施設のことです。国指定文化財の公開手続きを簡素化することができます。承認には施設の設置者、組織、建物および設備、重要文化財の公開実績について厳しい要件を満たしていることが条件であり、公開承認施設の承認を受けた施設は全国でも約百館ほどとなっております(令和六年十月一日時点)。

当館は、公開承認施設としてこれからも皆さまに信頼される施設として、刀剣類の保存および普及振興に寄与し、また日本のみならず世界に日本刀を発信していく拠点となるべく、今後も活動を続けてまいります。



【日本美術刀剣保存協会からのお知らせ】 刀剣博物館が公開承認施設に

日刀保台湾支部が設立される

去る12月19日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)の台湾支部が設立された。支部長は劉朝淵氏。

同協会は海外にも多くの会員を有しているが、アジア地域での海外支部設立は今回が初。今後は、台湾での活発な支部活動に加え、日台の刀剣愛好家同士の交流にも期待が持たれる。

設立を記念し、3月22日(土)から29日(土)まで、国立台湾大学において刀剣展「友成から清磨まで」が開催され、古今の名刀約40点が披露される。

山姥切国広展—名匠の軌跡、名刀の誕生—

天正14年(1586)、足利領主・長尾顕長は、小田原の北条氏より、従属の証として刀「本作長義」を拝領しました。それと同じ時期に、九州出身の刀工・国広は足利の地を訪れます。そこで、国広は顕長の持つ「本作長義」に出逢います。この出逢いにより、国広は「本作長義」の写しとされる名刀「山姥切国広」を生み出しました。

本展では、公益財団法人足利文化財団の「山姥切国広」取得を記念し、「山姥切国広」や徳川美術館所蔵の「本作長義」のほか、国広ゆかりの刀剣や、足利長尾氏関連作品を紹介し、国広の足跡や名刀誕生の背景を紐解いていきます。

会期：2月8日(土)～3月23日(日)

会場：足利市立美術館(栃木県足利市通2-14-7)

足利市特設ホームページ：

https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/category/000000/p006369.html

*展観は大混雑が予想されているため、全日事前予約制となっています。土日は既に完売、平日もほとんど埋まっていますので、必ずご確認ください。

〈併催ワークショップ・講演会〉すべて参加無料・要予約

①ワークショップ「日本刀にまつわる職人体験 君も立派な職人」

日時：3月8日(土)午前10時～(2時間程度)
会場：あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)小ホール
対象：市内小中学校に在学している小学校4年生から中学校3年生
保護者同伴必須(同伴は2名まで)
内容：研ぎ、鞘削り、銘切り、刀鑑賞体験
定員：抽選30名

②講演会「山姥切国広から見る国広の世界」

日時：3月2日(日)午後2時～(1時間半程度)
会場：足利商工会議所友愛会館4階わたらせホール
講師：國學院大學大学院兼任講師 井本悠紀氏
定員：抽選70名

③講演会・刀鑑賞会「日本刀の鑑賞法、国広一門の作品群を持ってみよう」

日時：3月8日(土)午後2時～(2時間程度)
会場：あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)小ホール
講師：飯田高遠堂代表取締役 飯田慶雄氏
定員：抽選70名



出品リスト

Table with columns: No., 作者名, 作品名称. Lists various items including swords, scrolls, and other artifacts with their respective authors and titles.

◎は重要文化財、○は重要美術品、□は足利市指定文化財、☆は桐生市指定文化財

イベント・レポート

清麿会

百七十回忌の年に四谷正宗を偲ぶ

秋の暖かな日差しに包まれた十一月十四日は、「江戸三作」の一人に数えられ、「四谷正宗」とうたわれ幕末の名工、山浦清麿の命日に当たり、今年も「清麿会」が四谷・宗福寺において開催され、約四十名の方が出席されました。

清麿会は七十七回を重ね、百七十回忌に当たる当年も、刀剣の鑑賞会とその後、食事が開かれ、久しぶりに懐かしい方や遠方の方にお会いすることができませんでした。また、初めてご参加いただく方も多くいらっしゃり、若い方や女性の方にもお越しいただき、嬉しく思います。

出品作品は山浦清麿が五振(大)

これと前後する期間、清麿の故郷である長野県東御市、かつての地名で東部町になりますが、こちらにある梅野記念絵画館・ふれあい館において「東御の刀鍛冶」繋ぐもの「源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法廣へ」という特別展が開催されていました。

数展示されるほか、オンラインゲーム「刀剣乱舞」の刀剣男士キャラクターに「源清麿」がいて、東御市の展示会ではゲームとのコラボレーションもされているということで、私も初日にお伺いしました。当日だけでも数百名の方が訪れたと伺い、あらためて清麿人気がものすごく高まっていると感じました。

清麿や兄の山浦真雄の作品が多

今年も、同じ宗福寺にお墓がある水心子正秀が没後二百年ということで、刀剣博物館において水心子正秀と清麿、大慶直胤の「江戸三作」展が開催されます。引き続き令和七年も、清麿ら新々刀の名工たちが刀剣界を盛り上げてくれるのではないのでしょうか。

清麿をはじめとする山浦一門ら

松本市立博物館「年越し新春刀剣展」我が家の名刀・刀装具」

松本城二の丸にあった旧施設の休館から二年。松本市立博物館は二三年十月、三の丸に舞台を移して再オープンしました。

この展覧会は、松本市立博物館と日本美術刀剣保存協会長野県南支部の主催、公益財団法人日本美術刀剣保存協会の共催で、十二月二十日から一月二十日の二カ月間開催されました。

よる「刀剣よろず相談所」が開設されて、「お家から刀が出てきちゃったが、どうしよう」という方が安心してアドバイスを受けていました。幅広い年齢層の方々に、日本刀や刀装具を知っていただく、貴重な機会だったと思います。

会員の所蔵刀四十五点と、後藤家の刀装具など合わせて約百点を展示公開、観覧料は何と無料でした。特に「菊紋」島田広助於

大輪さんのお話は、既に刀を勉強している方々ばかりでなく、刀剣が身近でない方々にも楽しめる内容の濃いものでした。丁寧に刀の見どころを解説されていて、参加者の皆さんが、ためらうことなく質問する光景も素晴らしいと思えました。

松本市立博物館では、十月一日から十一月十四日まで、国宝や重文・重美を中心とする「特別展」日本刀は美しい」が開催されます。その折は、ぜひお出かけください。(モリーナ)



会場は、支部会員の

の名刀を鑑賞刀としてご持参いただいた皆さまにはこの場をお借りして御礼を申し上げます。(冥賀亮典)



組合こよみ (令和6年10～12月)

- 10月16日 東京美術倶楽部において第38期第3回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・新堀理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・秋田事務局員
16日 東京美術倶楽部において「大刀剣市」事前説明会を開催
11月2日・3日 東京美術倶楽部において「大刀剣市」を開催。入場者数、1日目990人、2日目885人、合計1,875人
12日 服部副理事長と清水専務理事が事務所において刀剣評価査定
13日 飯田理事と大平理事が事務所において刀剣評価査定
26日 嶋田常務理事と生野理事が事務所において刀剣評価査定
12月3日 事務所において第38期第2回常務理事会を開催。出席者、深海理事長・服部副理事長・伊波副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・生野理事
16日 東京美術倶楽部において第38期第4回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・新堀理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・廣岡事務局員
17日 東京美術倶楽部において交換会を開催。参加者53名、出来高16,479,000円
17日 東京美術倶楽部において常務理事会を開催
17日 東京美術倶楽部において『刀剣界』編集委員会を開催

甲冑の話題

(二社)日本甲冑武具研究保存会

22

小札について②
前回は引き続き、日本甲冑の重要な構成要素である小札についてご紹介させていただきました。

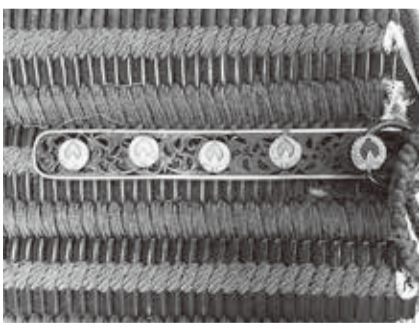
を向上させるために帯状一枚物の鉄板や練革を、小札を綴じ連ねた小札板の代わりに使用するようになります。

平安時代末期以降の主な日本甲冑は、鉄あるいは革で作られた短冊状の欠片を綴じ連ねて製作します。この欠片一枚を札、あるいは小札と呼びます。しかし、小札で甲冑を仕立てるには大変な労力を要します。切り分けた小札それぞれに十力以上の穴を開け、数百枚から数千枚に及ぶ枚数を綴じ連ね、それに漆を塗り重ねて小札板にするわけですから、多くの人手が必要になります。

このような一枚板でできたものを板札、または板物と呼びます。江戸時代の末まで大変多く使用されたこの板札ですが、中には小札を綴じ連ねた本小札とそっくりに作られたものも多く見受けられます。本小札や伊予札などを綴じ連ねた札板に似せて作られた板札のことを、切付札と言います。

省力化や激化する戦闘に適應するため、戦国時代頃には生産効率

に似せて作られることが多々あります。
図①は本小札で作られた札板、図②は本小札を模して作られた切付札ですが、切付札は表から見て綴じ連ねて作った本小札や本伊予札と区別がつかないものもあり、裏側を見た際に、表と様子が違って平滑であったり、打ち出しの凹状になっていれは切付札と判別することができませんが、精巧に作られた高級品に使用される切付札の中には、まれに札板の表のみならず裏も盛り上げて、本小札に似せているものもあります。



①本小札



切付伊予札の草摺を裏から見た様子



切付伊予札の草摺を表から見た様子



②切付札

切付札には、由緒や伝統を重んじる武士の美意識がこもっているように感じます。甲冑を鑑賞される際は、是非こうした細かい仕立にも注意してご覧になってください。(浅野太一)

当組合賛助会員で刀身彫刻家の橋本太郎(号・瑠巴)さんにおかれては、去る一月八日に逝去されました。七十六歳。昔口仙術師に学んで、刀身彫刻や彫金で活躍されました。ご冥福をお祈りします。

報告① 台湾支部を設立、日台文化交流へ

去る十二月十一日、台北市の東呉大学（一九〇〇年設立）におきまして、公益財団法人日本刀文化振興協会（大野義光理事長）の初めての海外支部である台湾支部設立を記念し、同大学との日台文化交流協力締結式ならびに記念展開幕式が開催され、出席してまいりました。

居合術や合気道など武道の盛んな台湾では、日本刀に関する関心も高く、今回の台湾支部設立につながりました。台湾の武道関係者や日台文化交流協会の方々との懇談を通じ、日本刀文化に対する真摯な気持ちも大変強く感じ、あらためて日本刀を通じてわが国の伝統文化



東呉大学との調印式風景。右は渡邊喜雄専務理事

報告②

セルビア共和国で「日本サムライアート展」を開催

公益財団法人日本刀文化振興協会では、セルビア共和国の文化交流団体からの要請に応え、十一月一日〜三日、首都ベオグラード市内にある「ルピツァ公妃の館」（一八三〇年建築）にて「日本サムライアート展」を開催してまいりました。

セルビア共和国で「日本刀の美」を開催。多くの方々から過分のお褒めの言葉も頂戴し、日本・セルビア両国の文化交流の一端を担えた意義ある催しでした。

期間中、宮入小左衛門行平刀匠と明珍宗裕刀匠による「日本刀講座」も大好評で、地元の少年・少女たちからの活発な質問が印象的でした。

地元マスメディアにも大きく取り上げてもらい、予想を上回り、展覧には三日間で一六〇〇名もの皆さま



明珍宗裕刀匠（右）による日本刀講座

再アンコール企画



今日の俺の行き先はパシフィコ横浜臨港公園。研師の是沢徳昌氏に会いに行く。氏にとつて十二回目のフルマランソンのゴール地点で、俺は氏を待つ。

よくぞ、こんな健康志向の人がわれらの刀剣界にいたものだ。学生時代に陸上選手として鳴らしたか、と思いきや、四十歳のメタボ検診で引掛かり、野球少年のご長男と走り始めたのをきっかけに、ランニングにのめりこんでいったという。

その結果は、研磨時の不自然な姿勢で体に出る痛みなども改善された。そんな氏が、自転車ロードレースに興味を持つのはごく当然のこと



是沢徳昌氏（左）とともに横浜にて

NEWS & TOPICS

池田広司氏、重要美術品二振を寄贈

池田広司氏は池田美術刀剣店（横浜市保土ヶ谷区岩井町三三）の二代目で、先代の演次氏の後を継いで刀剣商として活躍されている大先輩です。

先代が令和四年に他界されたの

を機に、同年、公益財団法人日本美術刀剣保存協会に重要美術品の刀剣二振を寄贈されました。

池田広司氏、重要美術品二振を寄贈。池田広司氏は池田美術刀剣店の二代目で、先代の演次氏の後を継いで刀剣商として活躍されている大先輩です。

池田広司氏は池田美術刀剣店の二代目で、先代の演次氏の後を継いで刀剣商として活躍されている大先輩です。

16 折々の古都

延長戦が始まる

石井理子

筆者は奈良県在住

と。短期間でその才能は開花したと思われる。何せ、五十歳代で挑んだ富士スバルライン・ヒルクライムは一時三十分台を記録。一方、廿四歳代の俺は、同コースを橋本聖子参議院議員に号砲を撃ってもらい、先にいるらしい長野五輪スピードスケート銅メダルの岡崎朋美さんに追いつけず、追いつけない一時間四十分でのゴールだ。

愛媛県内子町出身の是沢氏は、重要無形文化財保持者の永山光幹師の「永山美術刀剣研磨研究所」に入所し、三品謙次さん・斎藤司さんの元で研鑽を積んだ。

無鑑査認定を受けた令和五年は、人生最高の一年になるはずだったが、その一カ月後の七月に自転車の練習中落車、鎖骨と肋骨を数本折ってしまう。これでは仕事どころの話ではない。現在、家族から乗車を禁止されているという。

さて前編はこの辺までにし、後編では是沢さんの落車と、俺の落車の歴史、そして昨秋改正された、自転車には特に厳しい道交法。二人で考える安全走行を、皆さんに報告したい。

「源氏物語」を原文で読むセミナー」と記されていた。第一回は、明日ではないか！ 次の瞬間、私はもう電話をかけて申し込みをしていた。

翻訳は、与謝野晶子、田代文子、谷崎潤一郎、瀬戸内寂庵の四氏のものを讀んだ。しかし、内容を知っているのと、原文を讀むというのは別物であった。まだまだ、真に物語の中に入り込めてなかった。紫式部の視点というものを知らずにいた。

「刀剣美術」令和六年九月号より転載

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください！
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp



特別寄稿

後藤光嘉 夭折の嫡流

萩原 守（刀装具研究者）

後藤四郎兵衛光嘉、あまり聞かない名前である。

刀装具工の後藤家において四郎兵衛の名跡は宗家歴代当主のみが名乗れる権威ある名跡で、宗家の座に就いた人物は各時代において刀装具工の最高権威者として脚光を浴び、地位と名譽を保持していた。しかし、長い後藤家歴代の中で四郎兵衛を名乗りながら、一人だけ当主の座に就けなかった人物がいた。十代目当主である廉乗の嗣子として生まれ、四郎兵衛を名乗りながら夭折のために当主の座に就けず、その名も忘れ去られてしまった人物、それが光嘉である。

後藤光嘉は万治三年（一六六〇）に廉乗の長男として生まれ、初め亀市、そして瀨四郎と名乗り、天和三年（一六八三）から宗家当主の名跡である四郎兵衛を名乗る。前述の通り、廉乗の長男で四郎兵衛という名跡まで継いだのであるから、当然十一代目を相続すべき人物であったのだが、惜しくも貞享元年（一六八四）四月十九日に二十五歳の若さで亡くなった。戒名を隣聖院乘賢居士といい、乗賢と追号されている。

稲葉通龍の『装剣奇賞』には、廉乗の項に「おとなしく大様なる所あり、かの光源氏の物語をよ（読）むに、明石の上の事をしめやかに（書）きしおもかけ（面影）ともい（云）はんか。殊に弟子あまたと（取）りた（立）てられて寿も長かりし故、此作多く残り。」

其子に光喜とい（云）ふあり、巧みにして名人のいさほしたの（頼）もしかりしに夭折せられて、其作今至て稀なりを（惜）しむべし」と記されていることから、往時の斯界において一応その名と存在が知られていたようで、作品が希少であったことも知ることができよう。

このような事情があつて、廉乗の養嗣子として後藤仙乗の三男、光雄が貞享元年十一月十五日、二十一歳にて宗家に入籍し、光寿と名を改めた。元禄十年（一六九七）七月には宗家十一代目の家督を相続し、晩年になって通乗と名乗った。

さて、天明元年（一七八一）に刊行された『装剣奇賞』の時代においても「今至て稀なり」と記されているように、光嘉の作品は往時も数少なく、研究もままならなかったと推察できる。しかし、ありがたいことに確信に足りうる小柄を目にすることができたので、この小柄を基に考察し、光嘉作品特定の糸口をつかんでいきたい。

まず第一に取り上げるのは、津軽家旧蔵品の目貫と小柄の二所物である。目貫には「表祐乘裏頭乗代金参枚八両貞享元年七月七日後藤廉乗（花押）」の折紙が付されている。材質は後藤家では珍しい四分一寸の地金が使用され、減金という工法も後藤家においては例外的なものであるが、古雅横溢たる作品は初代祐乘の手になるものとして後藤宗家に伝えられていたものと考えられる。

その片目貫に合わせて、七代目頭乗が金減金擦り剥がし工法にて裏目貫を見事に彫り足し一具（一組）の目貫として完成させた。この顛末を知っていた廉乗が、代金参枚八両の折紙を付けたのである。

折紙が発行された貞享元年は光嘉が没した年なので、この目貫を父廉乗が扱っていた様子を、光嘉は生前に見知っていたのだろう。また、この目貫を手本として光嘉が小柄を制作したことも、画面や作り込みから見てほぼ確実視してよい。そして、この事情を知っている光嘉が極め銘を施したのである。

このように、たった一具であっても背景に重要な歴史があり、後藤家内部で行われた一連の図式？に関わる人々のことを、あれこれ推考して思いを馳せると、興味津々たるものがある。

光嘉（乗賢）によって制作された小柄は、右側半分を赤銅魚子地にして陸地を表し、左側半分には波打ち際と、それに連なる動きの波濤が美しく彫られている。右側には金色絵擦り剥がし工法にて目貫に合わせた一定の厚を配しており、その躍動する姿が今にも海の中に駆け込めんとする一瞬を的確に彫り上げている。

裏哺金に施された猫掻鐘は、江戸時代中期の後藤家作品、すなわち程乘・廉乗・通乗が好んで用いたものと同じ手法である。この小柄は、廉乗や通乗の傑作を見るような素晴らしい出来栄であり、「甚巧みにしていさほしたの（頼）もしかりし」と記された『装剣奇賞』の意味が、この作品を見るとよく理解できる。「作乗賢光寿（花押）」との極め銘に、光嘉が全てを制作したものであり、裏に施された猫掻鐘ももちろん光嘉が施したものである。

この作品に切られた極め銘は光嘉が宗家に入ってから、さほど時が経っていない頃の銘振りで、いまだ廉乗の影響が色濃く残っている。この先代を踏襲したような通乗初期の銘振りは、流暢で品格があり、中後期の銘振りよりも伸びやかなように思えるのだが、いか

がであろうか。このように養子に入って間もな

く光嘉が、本来十一代目を継ぐべき光嘉の遺作に銘を切るのであるから、光嘉としても思い一入であったことが、行き届いた銘振りから推察できる。なお、極め銘と

いってもわずかに三歳違いの、それも養父廉乗の長男である光嘉の作品を極めたもので、自身銘と同等の信憑性が認められる。図柄は霊獣の犀であるが、この犀は往々にして同じ霊獣の麒麟と間違われることが多い。それについて『繪本たから蔵』には詳細な図が掲載され、「犀は海のけだもの」と解説されており、一角で背中には甲羅がある。そして図柄としては水の流れを伴うものが多いといった特徴を把握できれば簡単に識別できる。

さて廉乗は、後藤宗家に伝わった名品の数々に折紙を付して津軽家に納めたと言われている。なるほど津軽家の伝来品を見ると、廉乗と若いころの通乗（光寿）が関係した後藤家の作品群が数多く納められており、この二所物もこれらの中に含まれていたものである。

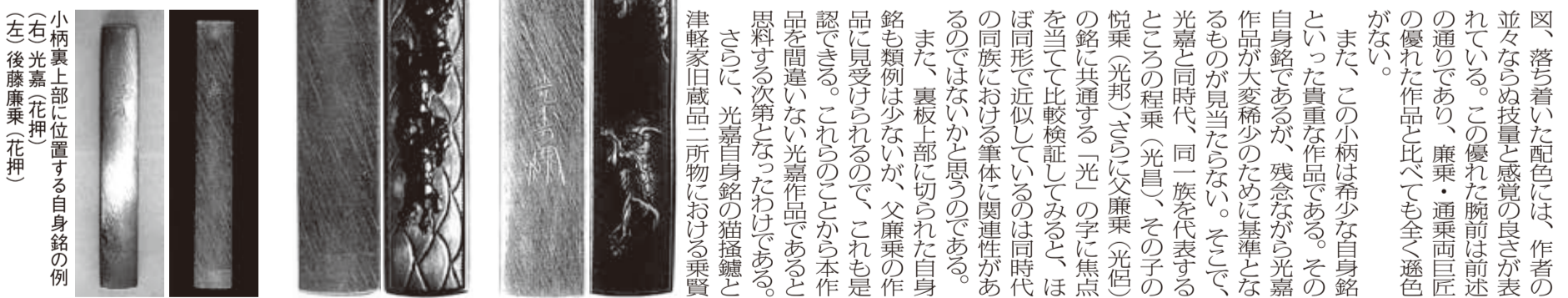
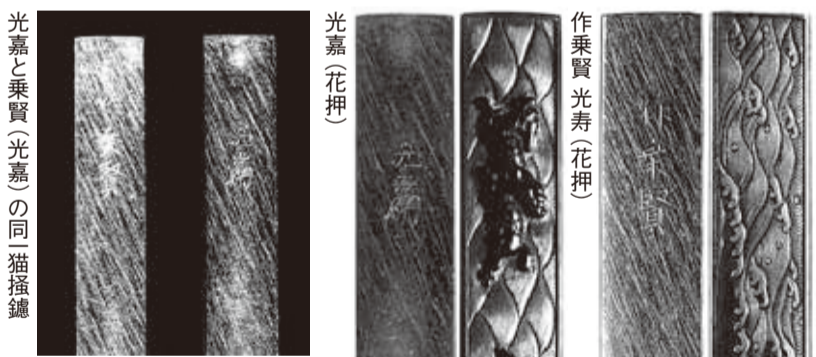
津軽家と後藤家は当時、どのような関係であったのだろうか。この時代の弘前藩は、四代藩主津軽信政の時代である。信政は、新田開発や治山治水といった歴代藩主の事業を引き継ぎ、これを成し遂げた藩主である。その結果、幕府に届けている四万六千石よりはるかに多い収入を得ていた。その額は莫大で、巷間三十万石とも五十万石とも言われるほどであり、弘前藩の台所はきわめて潤沢であった。

品を精力的に収集していたことは周知の事実であり、このことは津軽家旧蔵品であった国宝指定品をはじめとする名品の数々に象徴されている。

このようにことから、刀装具においても、弘前藩主の地位と財力をもって後藤宗家十代目当主の廉乗と関係を持ち、当然ながら関係は十一代目通乗に受け継がれたものと、津軽家の所蔵品から推察できる。このような事情から、後藤家における数々の名品が津軽家へと集まっていたのだろう。

第二に取り上げる作品は、偶然にも同じ犀を題材とした群犀図小柄である。この小柄は赤銅地に銀色絵仕立てであるが、あたかも銀無垢地に波を彫ったような素晴らしい銀色絵が施されている。高彫りされた五足の犀は、赤銅の漆黒色をそのまま生かし、銀波の上を黒々とした犀の群れが躍動する姿を的確かつリズムミカルに表現して、見る者を驚かせてくれる。その技術、バランスの取れた構

図、落ち着いた配色には、作者の並々ならぬ技量と感覚の良さが表れている。この優れた腕前は前述の通りであり、廉乗・通乗両巨匠の優れた作品と比べても全く遜色がない。また、この小柄は希少な自身銘といった貴重な作品である。その自身銘であるが、残念ながら光嘉作品が大変稀少のために基準となるものが見当たらない。そこで、光嘉と同時代、同一族を代表するところの程乘（光昌）、その子の悦乘（光邦）、さらに父廉乗（光侶）の銘に共通する「光」の字に焦点を当てて比較検証してみると、ほぼ同形で近似しているのは同時代の同族における筆体に関連性があるのではないかと思うのである。また、裏板上部に切られた自身銘も類例は少ないが、父廉乗の作品に見受けられるので、これも是認できる。これらのことから本作品を間違いなく光嘉作品であると史料する次第となったわけである。さらに、光嘉自身銘の猫掻鐘と津軽家旧蔵品二所物における乗賢



（光嘉）作光寿極小柄の猫掻鐘を同じ角度から光を当てて比較観察すると、同一の猫掻鐘であり、双方共に光嘉の作品として納得できるものである。また、このような猫掻鐘は同時代における後藤家作品にも散見され、再度写真をもって説明すると、先々代の程乘、その子光邦、そして父廉乗にも多々見受けられる。

もちろんここまでたどり着く過程においては作行きをはじめとして、材質や作り込みの良否、花押の形状など、諸々の箇所を総合的に精査し、後藤家の優れた作品であることを前提とした上であることをつけ加えておく。

このようなわけで、今ここに希少な光嘉の作品を幸いにも比較しながら取り上げることができた。

【出典】『装剣奇賞』稲葉通龍 『繪本たから蔵』著者不明 『刀装小道具銘字大系』若山猛



NEWS & TOPICS

末兼俊彦氏の日本刀講座「源氏にゆかりの刀剣たち」開かれる

東京国立博物館では特別展「旧嵯峨御所 大覚寺―百花繚乱御所ゆかりの絵画―」を一月二十一日〜三月十六日に開催するが、同展には大覚寺の薄緑(膝丸)と北野天満宮の鬼切丸(髭切)も同時展示される。

このタイミングに合わせて、読売新聞「新聞教室」刀剣講座のスペシャル版として、薄緑と鬼切丸を

NEWS & TOPICS

靖国神社遊就館改修に 刀剣界から支援

靖国神社に鎮まります御祭神の遺書や遺品をはじめ、英霊のみどころや事績を今に伝え、日本の近代の歩みを示す史料など十数点に及ぶ貴重な品を展示・保存する遊就館。

明治十五年の設立から百四十二年、関東大震災で被災した後、現在の本館が昭和六年に再建されてから九十三年が経過、遊就館は今、長い時間の中で設備の改修が必要になるとともに、変化する拝観者への対応も求められている。

令和七年に、先の大戦終結より八十年の節目を迎えるにあたり、多数の拝観者も予想されることから、常設展示の保全管理設備を更新するとともに、より良い拝見環境を整備するため、第一期の改修工事を行うこととなった。

そこで、クラウドファンディングが実施されたが、早々に目標金額の三千万円を達成、既に四千五百万円を超える支援が寄せられている。返礼品の中でも特に人気を集めたのが、刀匠が玉鋼を用いて制作した文鎮やキーホルダー。靖国刀匠の作風を基に鍛刀した百五十万円を超える限定短刀にも直ちに応募が

中心に、源氏にゆかりの刀剣についての解説が行われる。

講師は、京都国立博物館主任研究員の末兼俊彦さん。二月八日(土)、会場は東京・大手町の読売新聞東京本社三階。詳細・申し込みは、よみうりカルチャー大手町スクールへ。 <https://www.ymc.ne.jp/otemachi/kouza/2025-01-18089914.htm>

あった。

来る二月十五日には特別体験コース「刀職人と学ぶ日本刀ツアール」の開催も予定され、刀剣文化普及団体「鉄芸」のメンバー、刀匠の石田國壽氏、研師の藤代龍哉氏、鞍師の森井敦英氏、全国刀剣商協同組合理事の刀剣商飯田慶雄氏が普段では手に持たずに見ることが難しい靖国神社の所蔵刀剣を用いて鑑賞会を行い、刀剣文化の素晴らしさを伝えるとともに、継続しての支援を訴える。詳細は、 <https://readyfor.jp/projects/yasukuni-yushukan-01>



改修工事が進む遊就館

思い出の記 ヴゴルフ三昧

冥賀吉也

五十歳を過ぎた頃からコロナ禍の始まる前までの二十数年間、刀剣界のゴルフ仲間と、親睦を兼ねて、ほぼ毎月のようにゴルフを楽しんだ。

夏の暑い時期には、八ヶ岳でのプレーだ。高原なので、全く暑さを感じさせない。夜空も素晴らしい。大小の星がきらめき、まるで降るようだった。さらに、西の空から東に向かって、大河が流れるように、壮大な天の川が見られる。大宇宙の観測は、まさに神秘の体験だった。

寒さの一番厳しい二月には、沖縄でのプレーだ。既に防寒被が咲き始めた当地では、半袖の出で立ちだった。

紫陽花の美しく咲く時期にはいつも、日本一のゴルフ場と言われる川奈ゴルフ場でのプレーを楽しんだ。

早朝七時三十分富士コースをスタートし、午前中に一ラウンドを終える。起伏のある雄大でタフ

なコースを、全ホール歩きでのプレーだ。かなりの体力が必要だった。昼食を取り、午後二時頃から今度は大島コースのプレーだ。こちらはカートで回るの、比較的楽だった。終わるのはいつも六時を過ぎていた。

翌日も同様に回り、二日間で四ラウンドと、今ではとても考えられない強行軍であり、川奈ゴルフ場ではいつしか話題のメンバーとなっていた。

このように、ゴルフ場の予約からすべてを長年にわたって深海理事長にお世話になり、深く感謝申し上げます。

二十数年間の楽しいゴルフの思い出は、私の大切な宝物の一つでもある。

学生時代から喜寿を迎えた今日まで、日本刀を通してさまざまな人たちに助けていただいた。これからは健康に留意して、少しでも刀剣社会にご恩返しできればと考えている今日この頃である。

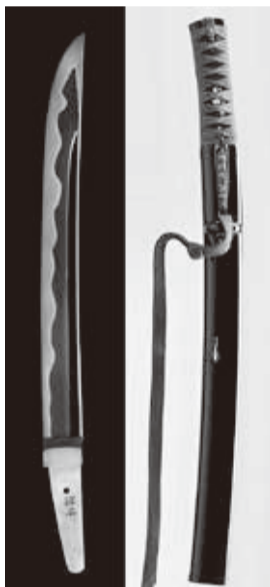
「お守り刀展覧会」優秀作品の展示

全日本刀匠会が昨年開催した「第17回お守り刀展覧会」で、全国の刀匠・刀職者が出品した刀剣から選定された優秀作品を展示します。三河武士のやかた家康館、備前長船刀剣博物館で巡回展示された作品です。

会期：3月5日(水)～10日(月) 3月5日14時からインスタライブあり(川崎晶平刀匠)。

会場：横浜高島屋7階 美術画廊 〒220-8601 神奈川県横浜市西区南幸1-6-31 ☎045-311-5111

<https://www.takashimaya.co.jp> 写真は、上山陽三作(岡山県)脇指銘 輝平 刃長38.6cm (付)黒漆塗鞘合口腰刀拵 総合の部：文部科学大臣賞、刀身の部：岡山県知事賞 外装の部：岡崎市長賞



柏原美術館

〒741-0081 山口県岩国市横山2丁目10-27 ☎0827-41-0506 <https://kashiwabara-museum.jp/>

新春特別展 「大坂新刀―津田助広・井上真改」

会期：12月13日(金)～3月23日(日)



北上市立鬼の館

〒024-0321 岩手県北上市和賀町岩崎16地割131 ☎0197-73-8488 <https://www.city.kitakami.iwate.jp/index.html>

開館30周年記念企画展 「奥州舞草刀とみちのくの名刀」

一関市の舞草(もくさ)という地域に居住し奥州藤原氏のお抱え刀工であったと言われている刀鍛冶集団が鍛えた刀を「舞草刀」と言います。今回は舞草集団が作刀した奥州舞草刀(舞草・宝寿・月山)とみちのくの名刀を中心に、諸国の名刀を22振展示します。また特別展示として、名工として称される「藤四郎吉光」を展示します。

会期：11月16日(土)～2月16日(日)



本能寺大寶殿宝物館

〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下ル 下本能寺前町522 ☎075-231-5335 <https://www.kyoto-honnouji.jp/news.html>

信長が愛した刀とその時代の刀剣展

会期：1月7日(火)～4月6日(日)



春日大社国宝殿

〒630-8212 奈良県奈良市春日野町160 ☎0742-22-7788 https://www.kasugataisha.or.jp/museum_exhibitions/14641/

冬季特別展 「一春日大社に伝わる一侍の魂 弓馬と刀剣」

日本では合戦の場面は、馬に跨る大将同士の名乗りや弓矢の応酬から、時代とともに歩兵による集団戦が中心となっていきます。春日大社には、国譲りの武神としても古くから篤い信仰が寄せられました。武家政権となる鎌倉時代からサムライたちが祈りを込めて、御神前に捧げた、刀剣類や弓具・馬具などを、使われている様子を描いた絵巻などとともに展示します。

会期：12月21日(土)～3月30日(日)



日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊

〒103-8001 中央区日本橋室町1-4-1 ☎03-3241-3311 <https://www.mistore.jp/store/nihombashi.html>

作刀五十年 大野義光～華麗なる重花丁子の刃文

大野義光刀匠は国宝「山鳥毛」の写しを製作し、本歌に迫る出来栄と評されて以来、愛刀家の心を捉えて離さない刀匠の一人となっています。「大野丁子」とも呼ばれる華やかな重花丁子。大野氏のたゆまぬ探求心と惜しみない努力、そして類まれなる技量により到達した世界です。日本橋三越本店では初個展となる今回は、大野氏の巧みな技と精神性が表現された太刀・脇指・短刀など優品の数々を展覧します。

会期：2月5日(水)～2月10日(月) 2月8日(土) 午後2時より大野義光氏によるギャラリートーク



催事情報

■刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9 ☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

第70回重要刀剣等新指定展

公益財団法人日本美術刀剣保存協会の審査事業は、日本刀の調査・保存を目的に昭和23年より行われています。現在では真偽鑑定等を主目的とする基本の保存審査を第一義とし、より美術性の高い格付けを重視した審査として特別保存、さらには重要・特別重要といった段階を設け審査を行っております。その中において重要審査は作品の正真はもちろん、資料性や健全性も兼ね備えた完成度の高い美術工芸品として国認定の重要美術品に準ずる優作であることの指定であり、毎年欠かすことなく審査は継続され今日に至っております。

日本刀の高い品格と真摯なるくろがねの美を、そして刀装・刀装具に表れた工芸美の粋を心ゆくまで鑑賞ください。
会期：1月11日(土)～2月24日(月・祝)



■燕市産業史料館

〒959-1263 新潟県燕市大曲4330-1 ☎0256-63-7666
https://tim.securesite.jp/

企画展「刀剣の世界展」

日本刀は国内のみならず、世界中で高い評価をされており、日本が誇る優れた伝統工芸品の1つです。本展では、平安時代から江戸時代までの刀剣を展示します。また、太刀や刀・脇指・薙刀・槍といった日本刀の種類などの基礎的な知識や専門用語、鑑賞のポイントの紹介も通じて、初心者でも楽しめる日本刀の展覧会となっております。
会期：1月10日(金)～3月2日(日)



■玉名市歴史博物館こころピア

〒865-0016 熊本県玉名市岩崎117 ☎0968-74-3989
https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/456/946.html

開館30周年特別展「よみがえる同田貫一豪刀の誕生とその再興」

「同田貫」は、肥後菊池氏のもとで活躍した「延寿」の一派として戦国時代末期に生まれた刀工集団です。初代正国は加藤清正のもとで活躍し、その重厚かつ強靱な作刀は、後年「兜割正国」の異名を天下に轟かせます。江戸時代という泰平の世が到来すると、同派もまた衰退の一途を辿りますが、9代政勝とその子宗広らの尽力により、新々刀期を代表する刀工として復活を遂げました。

本展では、正国による同田貫の興りから、政勝・宗広らによる再興と終焉、そしてドラマやゲームなどで今なお注目され続ける同田貫の歴史について、その作刀や刀工家に伝来する古文書群から概観します。
会期：11月24日(日)～2月2日(日)



■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/

テーマ展「進化する刀剣—1700年の歴史—」

刀剣の歴史は、古く縄文時代末期から弥生時代にかけて剣や鉾といった刀剣類が登場しました。次の古墳時代には、現在見られるような鐔を付属する大刀へと変遷し、刀剣の祖型が登場してきます。その後、平安時代初期には直刀や剣などが主流となり、平安時代中末期には湾刀（いわゆる日本刀：現在見られる刀剣）へと移り変わります。この時代以前に作られた刀剣を「上古刀」と呼び、後に登場する刀剣（古刀・新刀・新々刀・近代刀・現代刀）と区別されます。

本展示では、弥生時代から現代に至る刀剣の変遷を紹介するとともに、発掘から出た上古刀から当時の特徴にも迫ります。
会期：11月30日(土)～2月11日(火・祝)

■佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278
https://sanobi.or.jp/

名刀ズラリ

「名刀」の言葉でどんな刀を連想しますか？ 国宝や重要文化財に指定された刀剣ですか？ 有名武将が所持した刀剣ですか？ 展覧会常連の刀剣でしょうか？ 一方で、あまり目に触れる機会がなかった名刀もあります。文化財の指定は受けておらず、作者の名前もあまり知られていない。あるいは長年人知れず蔵に眠っていたり、個人コレクターが秘蔵していたなど。

本展では主役級の名刀から、脇役になることが多い刀装具まで、魅力的な作品をズラリと並べてご紹介。刀剣愛好家から、刀剣を初めてご覧になる方まで、お気軽にお楽しみください。
会期：1月7日(火)～2月16日(日)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■心斎橋オーパ 7階特設会場

〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-4-3 ☎06-6244-2121
https://www.toukenranbu-miraiten.jp/

特別展「刀剣乱舞で学ぶ 日本刀と未来展—刀剣男士のひみつ—」

本展は「刀剣乱舞」の仲間たちとともに、日本刀を通して日本が現代に紡いできた技術や文化を「科学」と「エンターテインメント」で楽しみながら学び、未来へつないでいくことをコンセプトにした展覧会です。

会場は5つの間（エリア）に分かれていて、日本刀ができるまでを学んだり、本物の日本刀を観察したり、剣術を体験したりと、エリアごとにさまざまなメニューを用意しています。さらに、東京会場で初お披露目した源義経の守り刀だったと伝承される名刀「今剣（いまのつるぎ）」を想像して作刀した日本刀は大阪会場でも展示します。
会期：1月23日(木)～2月16日(日)



■秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町1-3-6 ☎076-425-570
https://www.shusui-museum.jp/

日本刀物語II（後期）

武士の時代において名刀は単に求めれば手に入るものではなく、所持者には刀に相応した「格」が求められました。ゆえに刀は人そのものを表し、「もののふの魂」となったのです。後期展示は「名刀・美のひみつ」と題し、日本刀の鑑賞ポイントである「刃文」「地鉄」「姿」の3つの要素から、名刀の美について迫ります。切れ味を保つため必要不可欠である刃文、刀工の流派による個性が表れ、奥深い鉄の魅力を感じさせる地鉄、刀の反りや切先といった形状の美しさなど、名刀の持つ姿の美をご覧ください。
会期：12月11日(水)～3月2日(日)



■大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728
https://www.osakamushis.jp/index.html

特別展「—全日本刀匠会 50周年記念—日本刀1000年の軌跡」

鑄造りで反りのある美しい日本刀の姿が完成したのは平安時代のことと考えられています。以降、現在に至るまで、先の大戦後の一時期を除き、日本刀は約1000年にわたり製作され続けてきました。1000年もの間、日本刀の製作が続いてきたのは、常にその時代に活躍していた刀匠が存在したからにほかなりません。現在の国宝・重要文化財も、作られた当初は新作刀であったように、今まさに作り続けられている新作刀の中にも未来の国宝・重要文化財となる作品があるかもしれません。

本展は、国内最大の現代刀匠たちの団体である全日本刀匠会が設立されてから50年を迎える節目を記念し、1000年を経て現代へとバトンが受け継がれる日本刀の世界をご紹介します。
会期：4月4日(金)～5月26日(月)



■名古屋刀剣博物館 名古屋刀剣ワールド

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-35-43
https://www.meihaku.jp/

戦国武将ゆかりの刀剣

戦国武将の中でも特に有名な豊臣秀吉と徳川家康。本展では、当館の収蔵品の中から秀吉・家康それぞれにゆかりのある刀剣を中心に展示します。主な展示品として、徳川家康伝来の重要文化財「太刀銘 備州長船住景光 正和五年十月日」や、豊臣秀吉伝来の重要文化財「短刀 銘 備州長船住長義 正平十五年五月日」などの貴重な名刀を鑑賞することができます。刀剣の伝来や武将のエピソードとともに楽しみください。
会期：1月11日(土)～3月16日(日)

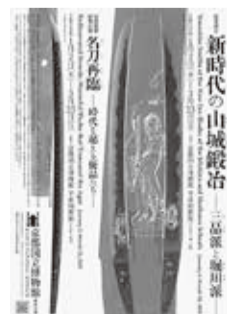


■京都国立博物館

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 ☎075-525-2473
https://www.kyohaku.go.jp/jp/

特集展示「新時代の山城鍛冶—三品派と堀川派—」

慶長年間（1596～1615）を境に、それ以前に作られた刀剣を「古刀」、それ以降に作られた刀剣を「新刀」と呼び習わしています。新刀は戦乱で荒廃した京都が復興する過程で生まれ、その後、全国へと展開し、鎌倉時代に次ぐ刀剣の黄金期を迎えました。この展示では新刀期の山城（京）鍛冶の双璧をなす三品派と堀川派の名品を紹介し、華やかでエネルギッシュな新刀の魅力をご堪能ください。
会期：1月2日(木)～3月23日(日)



刀 劍 界

令和7年1月15日発行

令和7年(2025) 謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

掲載は申し込み順です

株式会社 丸英刃剣
栃木県小山市乙女3-17-30
TEL 0285-14510158
日本刀 銀座丸英
東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
TEL 03-6264-0739

株式会社 安東貿易
代表取締役
安東 孝恭
岡山県岡山市北区清輝橋2-1-32
TEL 086-1226-1251
URL http://www.katana-ando.co.jp

株式会社 刀剣柴田
柴田 光隆
〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-9
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL http://www.tokenshita.co.jp

高島 吉童
代表
高島 吉童
東京都北区滝野川7-16-16
TEL 03-5339-4111
FAX 03-5339-4111
URL http://www.premico.jp

刀剣・小道具・鎧 刀剣杉田
代表
杉田 侑司
豊島区池袋2-49-5
TEL 03-3998-0114
FAX 03-3998-0114
URL http://token-hel.com

株式会社 和敬堂
土肥 豊久
新潟県長岡市柏町1-12-16
TEL 0258-13318510
FAX 0258-13318511
URL http://www.wakeido.com

晴雅堂清水
代表取締役
清水 儀孝
〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL 03-3384-2137
FAX 03-3384-2137
URL http://www.wakeido.com

有限会社 勝武堂
大平 岳子
東京都中野区本町4-45-10
TEL/FAX 03-3333-8130
MAIL info@shoubudou.co.jp
URL https://www.shoubudou.co.jp

刀剣研師 白木 良彦
〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228

つるぎの屋
冥賀 亮吉
東京都北区西ヶ原4-35-11
TEL 03-3576-1753
URL http://www.tsuruginoya.com/

やしま
齋藤 隆雅
東京都西東京市柳沢6-18-10
TEL 042-4631-5310
FAX 042-4631-7955

銀座 盛光堂
齋藤 恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251(代)
URL https://www.ginzaiseikodo.com

刀剣・武器・武具 刀剣はたや
籙谷 三男
〒194-0013
東京都町田市原町3-14-14
TEL 042-722-0022
FAX 042-722-1608
URL https://www.toukenhataya.jp

武蔵国一宮美術刀剣骨董品居合道・古式銃専門店
有限会社 大宮 清水商会
代表取締役
清水 敏行
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7
TEL 048-644-3477
FAX 048-644-7434
URL http://www.surplusseopard.com/

銀座誠友堂
千代田区有楽町2-10-11 東京交通会館2階
TEL 03-3565-8800
URL http://www.seiyudo.com

日本刀販売 買取 有限会社 葵美術
代表取締役
鶴田 一成
渋谷区代々木1-54-6
TEL 03-3375-5553
MAIL info@aiojapan.jp
URL http://www.aiojapan.jp

刀剣美術 (有) 静心堂
芦澤 一淳
〒272-0826 千葉県市川市真間2-1-26
TEL/FAX 047-321-1039

笹原 俊和
〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375-1
携帯 090-3307814044

美術刀装具 石井
石井 理子
〒639-2163
奈良県葛城市八川1-49-19
TEL 090-6236-8042

御刀研磨処 楽屋
研師 平井 隆守
岐阜県関市小瀬976-1
TEL 0575-12510928
MAIL onkahanata@dion.ne.jp

川越 (有) 優古堂
三浦 優子
埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-2449-0700
FAX 049-2449-0702
MAIL yukudo@miror.ocn.ne.jp

奈良県無形文化財保持者
(月山) 日本刀鍛錬道場・記念館
月山 貞利
奈良県桜井市大字茅原228-18
TEL/FAX 074-422-3230
URL http://gssaninfo

株式会社 眞玄堂
高橋 歳夫
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-1178
FAX 03-3252-1178
MAIL info@sanuraigallery.com

虹雅美術舗
笠原 泰明
〒142-0063
東京都品川区荏原2-17-13
TEL 03-3781-6582

(株) 日本刀剣
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-1-11
TEL 03-3434-4321
虎ノ門ビルA出口すぐ

(有) 飯田 高遠堂
代表取締役
飯田 慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
URL http://www.idakoendo.com

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
代表
川島 貴敏
〒104-0061
東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
MAIL fahund@heihon.ne.jp
URL https://www.fahund.com

刀剣の店 玉山名史刀
玉山 祐司・真敏
岡山市北区田町1-1-11
TEL/FAX 086-227-4188
URL http://www.t-touken.com

広井 章久
〒170-0011
東京都豊島区上池袋1-13-12
TEL 03-3917-1842

木村美術刀剣店
木村 義治
群馬県高崎市萩原町484-110
TEL 027-3352-1159
FAX 027-3352-1159

常陸美術
川口 博
〒311-1343
茨城県小美玉市高崎20-10-13
TEL 0299-1107-1071
FAX 0299-1107-1071
MAIL airohosi@gmail.com
URL https://www.hiachi-bijutsu.net

匠の店 新堀美術刀剣
新堀 孝道
〒241-0024
横浜市区本村町40-7
TEL 045-364-1288
FAX 045-364-1288
MAIL info@shimbori.co.jp
URL http://www.shimbori.co.jp

銀座長州屋
深海 信彦
東京都中央区銀座3-10-4
TEL 03-3541-8371

陽々 gallery youyou
モリ一十令
刀装具・武具・古美術
山梨県北杜市長坂町中丸1712-7
Tel. 0551-45-8113
www.galleryyouyou.com

刀剣古銭切手(売買)
(株) 城南堂古美術店
代表
田中 勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL 03-3771-0110
FAX 03-3771-0110
MAIL info@chunan.co.jp
携帯 090-3320-0819

刀剣小道具
美術刀剣前田
店主 前田 幸洋
〒577-0826
大阪府東大阪市大連北2-14-15
TEL 090-9621-1819

古式銃砲・陸海軍武官軍刀文官儀礼刀専門店
株式会社 シカゴレジメンタルズ
東京都台東区上野1-12-17
TEL 03-5818-1123
MAIL chicago@regimentals.jp
URL http://www.regimentals.jp

ニシコーポレーション株式会社
代表取締役 刀剣評論家 鑑定士
西垣 皓司
東京都港区虎ノ門1-15-11 虎ノ門ビル4階
TEL 03-6226-8833
FAX 03-6226-1760

刀剣・新古美術品
株式会社 宝古堂美術
代表取締役
山田 雄一郎
東京都目黒区上目黒1-1-6
TEL 03-5548-6111
FAX 03-5548-6111
URL http://www.takemoto.co.jp

美術刀剣小道具・武具類の売買・加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井 唯夫
大阪市中央区日本橋2-17-11
TEL 06-6631-1221
FAX 06-6631-1221

株式会社 美術刀剣松本
代表取締役
松本 義行
〒134-0088
東京都江戸川区西葛西6-13-14 丸清ビル3F
TEL 03-6456-0877
FAX 03-6456-0889

福隆美術工芸
代表者
網取 譲一
東京都中央区八丁堀3-1-13 飯野ビル1階
TEL 03-6280-4987

株式会社 山城屋
代表取締役
嶋田 伸夫
東京都豊島区巢鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701

大和美術刀剣
大西 康一
さいたま市南区大谷口5277
TEL 048-8775-2122

赤萩刀剣店
赤萩 稔
茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-4412643

もちだ美術
持田 具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4 447
TEL 048-855-4792

美術刀剣小道具・武具類の売買・加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井 唯夫
大阪市中央区日本橋2-17-11
TEL 06-6631-1221
FAX 06-6631-1221